

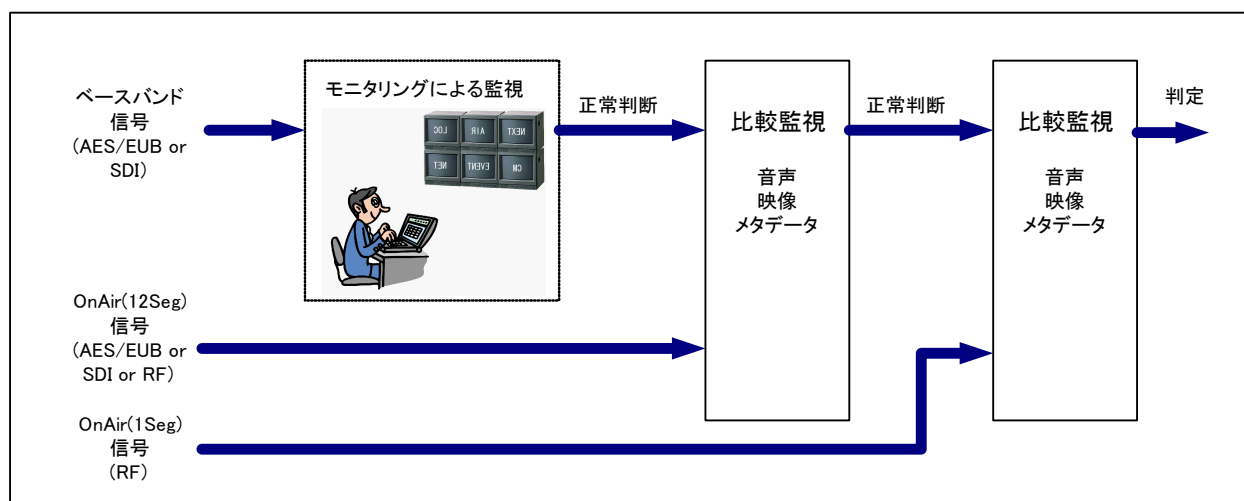
音声チェッカー

多くの放送局のマスターではベースバンド信号をモニタリングして画像・音声の監視を行っております。監視者は上記のモニタリングと同時にOnAir・1Segの画音やデータ放送・字幕などのメタデータの監視も行う必要があります。一方で音声もステレオだけでなく5.1chサラウンド放送をはじめ、海外ドラマなどのバイリンガル放送など音声多チャンネルの機会が増え、より複雑な監視が必要となっております。本装置を導入する事により放送局のマスター監視の人間の負荷の低減を実現します。

【特長】

- 人間がモニタリングした信号を基準とし比較監視をおこないます。
- ステレオ・5.1ch・バイリンガル放送（2ES ステレオ等）を判断し、自動的に比較するチャンネルの切替を行います。
- AES/EUB、SDI、RF (TS) 入力に対応可能です
- 瞬断やプチノイズなどのノイズを一重刺激評価で監視します。
- オプションで字幕および映像の監視も可能です。

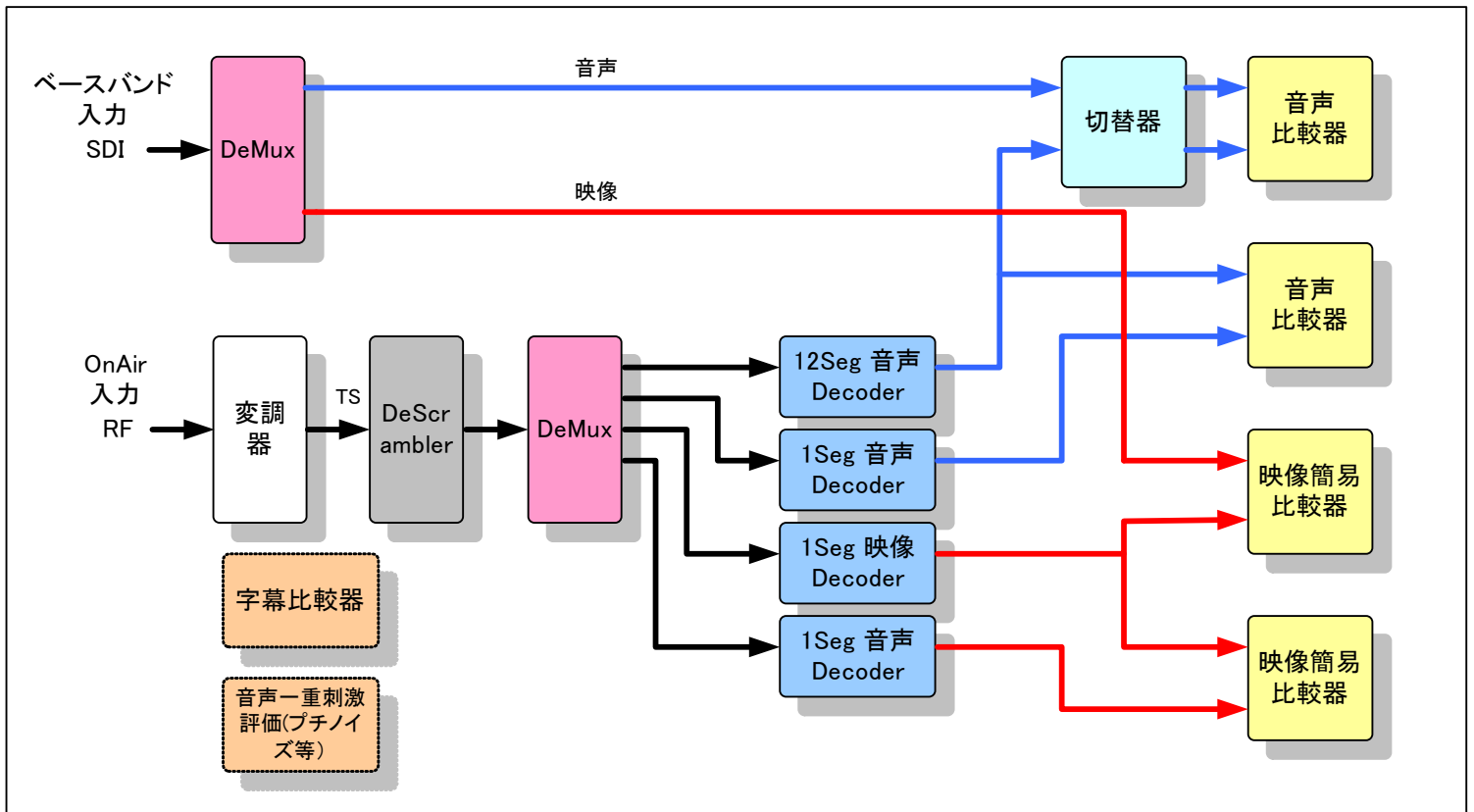
□ 監視イメージ



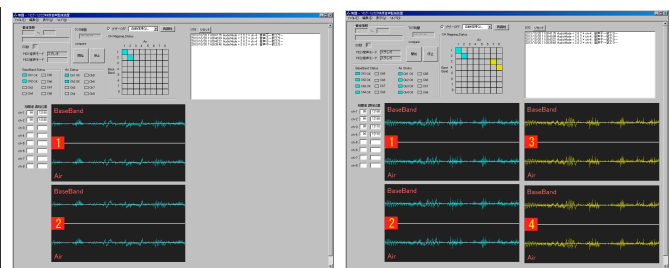
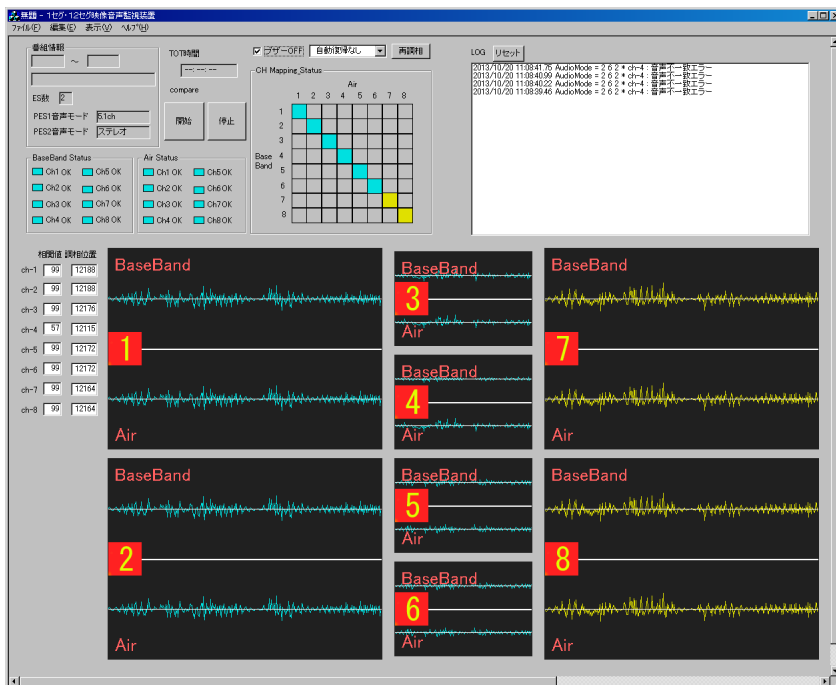
【主な仕様】

項目	内容
入力	ベースバンド : AES/EUB, SDI
	OnAir (12Seg) : AES/EUB, SDI, RF
	OnAir (1Seg) : RF
監視項目	音声 : ES数およびAudio Mode（モノ、ステレオ、5.1ch）で比較チャンネルを自動切替え
	映像 : 簡易映像比較（オプション）
	字幕 : アンシラリーデータとの比較（オプション）

【ブロック図】



【監視装置表示画面】



ES1 :ステレオ

ES1 :ステレオ
ES2 :ステレオ

ステレオ・5.1ch・バイリンガル
放送（2ES ステレオ等）を判断し、
自動的に比較するチャンネルの切
替を行います。

ES1 :5.1ch ES2 :ステレオ

MetaData

メタデータ

info@meta-data.jp

http://meta-data.jp

〒400-0204

山梨県南アルプス市バラ沢1077

TEL : 055-282-9330